

さいたま 来ぶらり通信

Contents

わがまちSai発見..... 1, 2 本棚ぶらり 盆栽..... 3
 第17回現代短歌新人賞 / 「ボランティア向け読み聞かせブックリスト」を発行します..... 4

わがまち

Sai 発見

はっけん



世界盆栽大会

... IN さいたま



8回目となる世界盆栽大会が、平成29年4月27日（木）から30日（日）まで大宮盆栽村を有するさいたま市で開催されます。

これを機に盆栽を育ててみたい！世界盆栽大会をもっと楽しみたい！そんなときに役立つ本をご紹介します。

大会前に読んでみよう！



◀よくわかる盆栽 基礎から手入れまで
 やまだ かおり 山田香織／著 ナツメ社 2016年

番外編

市報2017年1月号に「さいたま市に根づき発展した盆栽文化を世界に発信」と題した、清水市長と山田香織氏の新春対談が掲載されています。「市報さいたま」バックナンバーは各館でご覧いただけます。

さいたま観光大使も務める山田氏は、盆栽家としての心が伝わる著作が多数あります。

本書の中で盆栽を「鉢と植物が織りなす緑の芸術」とであると語り、特に大切にしていることとして、以下の3つの条件をあげています。

- 1 鉢と植物が美術的に調和がとれていること
- 2 盆上に自然の景色が描かれていること
- 3 鉢の中で自然の摂理が繰り返されていること

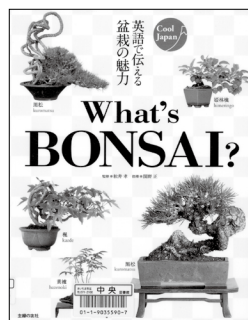
基礎知識をはじめ、土の管理から細かな剪定の仕方まで、写真や図を使用し、わかりやすく解説しています。

創る・育てる・楽しむ盆栽入門▶
 ひら おまさし 平尾成志／監修 コスミック出版
 2015年



日本文化の継承を志し、大宮区盆栽町にある「加藤蔓青園」に入門。その後世界へ活動の場を広げた平尾氏は、枠にとらわれないさまざまなデモンストレーションを行っています。

本書の後半には、平尾氏が手がけたイベントの様子を紹介。各国の人々を魅了した日本の芸術をご覧ください。



◀What's BONSAI?

英語で伝える盆栽の魅力

まついたかし

松井 孝 / 監修 主婦の友社 2016年

盆栽は、平安時代^{とう}唐から渡来した^{ほんけい}盆景を、貴族が庭先で鑑賞したのが始まりとされています。

現在では、世界各国に愛好者も急増し、日本の「BONSAI」は世界から認められる文化芸術として知られています。

その魅力を英語と日本語の両方で伝える本書は、日本の歴史ある盆栽を更に世界へ発信する架け橋になるのではないかなと思わせる一冊になっています。

第8回世界盆栽大会で国境を越えた出会いがあるかもしれません。

わがまち さいたまと盆栽

江戸時代から明治・大正にかけて、現在の東京都文京区に多くの盆栽園が店を構えていました。

しかし、都市化が進むにつれ盆栽の育成に適した環境作りが困難となりました。

大正12年の関東大震災をきっかけとし、盆栽園の一部は、大正14年4月に資源が豊富な大宮公園北部へ移住しました。これが「大宮盆栽村」の始まりとなります。

断続的に移住は行われ、昭和3年には、組合役員20名の「盆栽村組合」を発足しました。その際、盆栽村に居住するためのとてもユニークな「住民協約」が作られました。

- 1、ここに居住する人は、盆栽を10鉢以上もつこと
- 2、門戸を解放し、いつでも、誰でも見られるようにしておくこと
- 3、他人を見下ろし、日陰を作るような二階家は作らないこと
- 4、ブロック塀は作らず、家の囲いはすべて生垣にすること

最盛期には30以上の盆栽園が軒を連ねた盆栽村。移住を開始した際は「大砂土村^{おおさどむら}」という地名でしたが早い段階で盆栽村と通称され、昭和17年には「大宮盆栽町」が行政区画名として採用されました。

しかし、戦時中、盆栽は「ぜいたく品」とされ、大宮盆栽村は打撃を受けました。

戦後、盆栽村は復興に向け「盆栽村陳列会」を開催するなど、地道に普及活動をつづけました。その甲斐もあり国内外から政治家や著名人が来村するようになりました。

大宮盆栽村が中心となって実施してきた活動の成果として、平成元年、「盆栽の心で築く世界の平和」をスローガンに掲げ、第1回世界盆栽大会が大宮ソニックシティで開催されました。

その後、アメリカや韓国など海外での開催を経て、今年、28年ぶりに世界盆栽大会が日本へ帰ってきます。

これまでの開催場所

1989年／第1回大会	▶ 日本・さいたま市 (旧大宮市)
1993年／第2回大会	▶ アメリカ・オーランド
1997年／第3回大会	▶ 韓国・ソウル
2001年／第4回大会	▶ ドイツ・ミュンヘン
2005年／第5回大会	▶ アメリカ・ワシントンD.C.
2009年／第6回大会	▶ プエルトリコ・サンフアン
2013年／第7回大会	▶ 中国・ジンタン
そしてふたたび	
2017年／第8回大会	▶ 日本・さいたま市

参考：『〈盆栽〉の物語』

さいたま市大宮盆栽美術館

2014年

『大宮盆栽村クロニクル』

みやた かずや
宮田一也／著 アーカイブス出版

2008年



本棚 ぶらり

こんな

BON・SAI・BON は
盆栽本

いかがですか？

知る 盆栽

『盆栽—大宮盆栽村』

所収(『東京花散歩』^{きしもとようこ}岸本葉子／著 亜紀書房
2011年)

文政年間に出版された『江戸名所花暦』を手がかりに、江戸時代から親しまれてきた花の行楽地をめぐるエッセイ集。この中に、なぜか盆栽村が登場しています。

江戸の人々が花と同じように樹木や風景も愛でていたことが感じられる『花暦』の記述から、著者は盆栽を連想し、江戸でも花でもありませんが盆栽村を散歩することにしたようです。

盆栽村で丁寧な解説を聞き、盆栽の小ささに歓声を上げ、木の向こうに風景を想像し、樹齢千年の松を育んだ年月に想いをはせます。

因る 盆栽

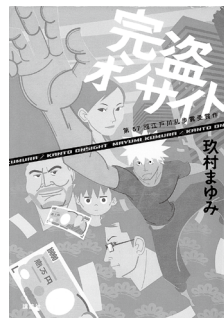
『盆栽老人とその周辺』

^{ふかざわしちろう}深沢七郎／著 文藝春秋 1973年

大宮の盆栽村から20キロほどの農村に住み始めた「私」。盆栽がブームと知り、つい松の苗を買うも、あっという間に枯らしてしまいます。なにしろ自分の顔を洗うのすらめんどろ、毎日の水をやらなければならない盆栽などとてもないという性格なのです。

それなのに周囲の人々はどういうわけか、誰もかれもが「私」に盆栽をすすめてきます。眺めるだけのつもりが売りつけられそうになったり、無理やり20鉢も預からされたり、断るのが苦手な「私」は振り回されっぱなしです。

終盤は盆栽から離れて、農村の日常を描いて終わりますが、次から次へと現れるマイペースで強引な人々と、優柔不断な「私」との会話がユーモラスな小説です。



『完盗オンサイト』

玖村まゆみ／著
講談社 2011年

盗む 盆栽

『完盗オンサイト』

^{かんとう}
^{くむら}玖村まゆみ／著 講談社 2011年

「オンサイト」とは、初見のルートを事前情報なしに登り切るという意味のクライミング用語です。登り切れることを「完登」と言います。

21歳の^{とある}淡は、海外で活躍するクライマーでしたが、恋人にふられて帰国、職も無く路上生活をしていたところを、寺の住職・^{いわしる}岩代に拾われます。

岩代の世話で建設現場に働きに出ますが、淡が起こしたとある行動が原因で、建設主の大企業会長に目を付けられてしまいます。逆らえない立場に追い込まれた淡に会長が突き付けたのは、そのクライミング能力を生かして皇居に忍び込み、樹齢550年の盆栽「徳川三代」を盗み出せという依頼でした。

多額の負債を抱える元恋人、寺に同居する言葉が喋れない4歳の少年・^{いかる}斑鳩、斑鳩を狙う不気味な男・^{せお}瀬尾と、複雑な人間関係も相まって、最後まで先の読めない展開が続きます。果たして淡は無事に「完盗」できるのでしょうか！？

探す 盆栽

『きみはポラリス』

^{みうら}三浦しをん／著 新潮社 2007年

エッセイ『妄想炸裂』(新書館)や^{なかむら}中村うさぎとの対談『女子漂流』(毎日新聞社)などで盆栽好きを告白している著者。この恋愛短編小説集の中にも、盆栽が出てくる物語があります。どの作品かは、読んでみてのお楽しみ！



第17回

現代短歌新人賞 受賞作が決まりました



『未明の窓』
広坂早苗／著
六花書林 2015年

さいたま市が主催し、市民の文学活動の充実と日本現代短歌界の振興を目的に、歌壇に新風をもたらす歌人を表彰してきた「現代短歌新人賞」。その第17回受賞作が、^{ひろき}広坂^{さなえ}早苗さんの『未明の窓』(^{りっかしよりん}六花書林 2015年刊)に決まりました。

「広坂早苗『未明の窓』は県立高校教師として生徒に接する苦痛、悩み、喜びなどと、同時に、子育て

をし、子の成長にしたがって体験する生活の明暗などをうたって、作者の成熟を示し、将来を期待させる歌集である。」(選考委員講評 さいたま市ホームページより)

受賞作品や選考過程については、雑誌「ミセス」2017年3月号(文化出版局)に記事が掲載されています。図書館でも所蔵していますので、ぜひご覧ください。



「ボランティア向け読み聞かせブックリスト」を発行します。

読み聞かせボランティア支援を目的として、さいたま市図書館の児童担当職員が選んだ、集団への読み聞かせにおすすめの絵本175冊を掲載したリストです。

内容紹介はもちろん、対象年齢や読み聞かせにかかる時間の目安を記載しています。季節や登場人物など特定のテーマから本を探せるテーマ索引もついています。4月中の配布開始を予定しています。



職員の経験をもとにした
読み聞かせの
ポイントも…!



編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<http://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <http://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下のQRコードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321	馬宮図書館 625-8831	与野図書館 853-7816	桜図書館 858-9090
東浦和図書館 875-9977	三橋分館 625-4319	与野南図書館 855-3735	大久保東分館 853-7100
美園図書館 764-9610	春野図書館 687-8301	西分館 854-8636	北図書館 669-6111
大宮図書館 643-3701	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523	宮原図書館 662-5401
桜木図書館 649-5871	七里図書館 682-3248	岩槻駅東口図書館 758-3200	武蔵浦和図書館 844-7210
大宮西部図書館 664-4946	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665	南浦和図書館 862-8568

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集後記★★ 来ぶらり通信13号でも盆栽美術館について特集しています。図書館ホームページでもご覧いただけますので、あわせてどうぞ。盆栽に関する本を集めた北図書館「盆栽コーナー」にも、ぜひお立ち寄りください!

次回発行予定：8月15日(年3回発行)



もっと身近に、
もっとしあわせに

